

## 1 議事日程

〔令和7年太宰府市議会 決算特別委員会〕

令和7年8月29日

午前 10 時 45 分

於 全員協議会室

日程第1 認定第1号 令和6年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について

## 2 出席委員は次のとおりである（16名）

委員長	陶山良尚	議員	副委員長	木村彰人	議員
委員	馬場礼子	議員	委員	今泉義文	議員
〃	森田正嗣	議員	〃	入江寿	議員
〃	徳永洋介	議員	〃	船越隆之	議員
〃	堺剛	議員	〃	笠利毅	議員
〃	原田久美子	議員	〃	神武綾	議員
〃	小畠真由美	議員	〃	長谷川公成	議員
〃	橋本健	議員	〃	門田直樹	議員

## 3 欠席委員は次のとおりである

なし

## 4 太宰府市議会委員会条例第18条により説明のため出席した者の職氏名（13名）

総務部長 (経営企画担当)	轟貴之	総務部理事 (市長室担当)	杉山知大
総務部理事 (総務担当)	宮崎征二	市民生活部長	友添浩一
健康福祉部長	大谷賢治	健康福祉部理事 (子ども担当)	添田朱実
都市整備部長 (併公営企業担当)	伊藤健一	観光経済部長	竹崎雄一郎
教育部長	添田邦彦	教育部理事	平野善浩
総務課長 (併選舉管理委員会事務局長)	鳥飼太	経営企画課長	宮原竜
監査委員事務局長	松尾誓志		

## 5 職務のため委員会に出席した事務局職員の職氏名（3名）

議会事務局長	野寄正博	議事課長	花田敏浩
書記	三舛貴市		

開会 午前10時45分

~~~~~ ○ ~~~~~~

○委員長（陶山良尚委員） ただいまから、決算特別委員会を開会いたします。

本日の決算特別委員会は、認定第1号について執行部から概要説明を受けたいと思います。

~~~~~ ○ ~~~~~~

#### 日程第1 認定第1号 令和6年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について

○委員長（陶山良尚委員） それでは、日程第1、認定第1号「令和6年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について」を議題とします。

本案について、説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（経営企画担当）（轟 貴之） こんにちは。それでは、認定第1号「令和6年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について」、その概要をご説明申し上げます。

資料といたしましては、こちら事務報告書の1ページからの決算の概要に沿って説明をさせていただきます。

なお、説明の都合上、決算額は千円単位とさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

それでは1ページをご覧ください。こちらには会計別決算状況を掲載しております。

令和6年度の一般会計の決算額は、歳入総額336億3,487万7,000円、歳出総額318億7,415万4,000円となっております。参考に、これを前年度と比較いたしますと、歳入では507万9,000円、0.02%、歳出では2億243万2,000円、0.6%の増額となりました。

2ページをご覧ください。

こちらには普通会計決算の概略を掲載しておりますが、これからの説明につきましては、一般会計と住宅新築資金等貸付事業特別会計、筑紫地区障害支援区分等審査会事業特別会計を合わせた普通会計の数値になりますので、あらかじめご了承願います。

歳入歳出差引き額は17億6,127万9,000円の黒字となり、ここから繰越明許費による翌年度へ繰り越すべき財源1億5,246万3,000円を差し引きますと、実質収支額として16億881万6,000円と大きな黒字決算となっております。

令和6年度は、エネルギー価格や物価の上昇といった厳しい状況の中、市民生活や地域経済を力強く支える施策に取り組むとともに、最終年度を迎える第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（まちづくりビジョン）に基づく各種施策を着実に実行しました。

また、事業の遂行に当たっては、事務の効率化や費用対効果を常に意識して歳出削減に努め、国・県の補助金や後年度に交付税措置がある市債の積極的な活用など、市の財政負担を最小限に抑えるよう努めるとともに、市政積年のもしくは社会先進的な課題の解決に積極的に取り組みました。

それでは、3ページ以降に記載しております決算の内訳をご説明いたします。

まず歳入の状況をご説明いたします。

3ページをご覧ください。こちらには歳入決算の状況を掲載しております。

歳入全体の決算額は336億4,667万7,000円で、前年度より1,482万8,000円の増額となり、3年連続上昇する結果となりました。定額減税により市税に影響がありました。地方特例交付金により全額補填されております。また、物価高騰の影響により地方消費税交付金が、令和の都太宰府ふるさと納税基金などの積極的な活用により繰入金が増加しました。

一方で決算剰余金の減少により繰越金が、令和5年度までに水城小学校の整備が完了したことなどにより国庫支出金や市債が減少しております。

4ページをご覧ください。こちらには市税収入の状況を掲載しております。

市税の決算額は形式的には87億9,814万1,000円で、前年度と比較いたしますと5,794万2,000円、0.7%の減額となりましたが、定額減税により個人市民税が5%減少しており、実質的には前年比2億6,319万8,000円、3%の増加となり、初の90億円台となる過去最高の91億1,928万1,000円となります。また、緩やかに景気が回復している影響などにより法人市民税が増額したほか、新築家屋の増などにより固定資産税及び都市計画税、軽自動車税なども増額となりました。

5ページをご覧ください。こちらには一般財源の状況を掲載しております。

一般財源全体といたしましては215億7,153万9,000円で、前年度から1億313万8,000円、0.5%の増額となり、過去最高だった前年度をさらに上回り、5年連続上昇する結果となりました。

なお、定額減税減収補填特例交付金が交付され、地方特例交付金が、物価高騰の影響により地方消費税交付金が増額となっております。

6ページをご覧ください。こちらには歳入を自主財源と依存財源とに分けて掲載しております。

自主財源につきましては、令和の都太宰府ふるさと納税基金の活用などにより繰入金が増となつたものの、寄附金や繰越金が減となつたことなどから、前年度に比べ2億7,321万1,000円、1.8%の減額となりました。

依存財源につきましては、市債が減となつたものの、地方特例交付金など各種交付金が増となつたため、前年度に比べ2億8,803万9,000円、1.5%の増額となりました。

これらの結果、自主財源43.5%、依存財源56.5%となりました。

以上で歳入の説明を終わらせていただきます。

次に、歳出の状況をご説明いたします。7ページをご覧ください。

こちらには歳出決算の状況と、歳出を目的別に分けて掲載しております。

歳出全体の決算額は318億8,539万8,000円で、前年度比2億1,217万1,000円、0.7%の増額となりました。

内訳を目的別に見ますと、低所得者世帯支援給付金や定額減税補足給付金、学童保育所の新

築工事などにより民生費が増額となりました。一方で、水城小学校の整備が完了したことなどにより、教育費が減額となっております。

8ページをご覧ください。こちらには歳出を性質別に分けて掲載しております。

内訳を性質別に見ますと、義務的経費では、扶助費において経常的な社会保障費の増に加え、児童手当の拡充などにより増額となり、義務的経費全体で10億5,489万1,000円の増額となりました。

投資的経費では、令和5年度までに水城小学校の整備や観世音寺61号線の道路改良事業が完了した結果、11億8,877万5,000円の減額となっております。その他の経費では、令和の都太宰府ふるさと納税基金への積立てやワクチン接種体制確保補助金精算返還金などにより、全体としては3億4,605万5,000円の増額となりました。

以上で歳出の説明を終わらせていただきます。

次に、本市の財政状況についてご説明をいたします。10ページをご覧ください。

こちらには、経常収支比率を掲載しております。

経常収支比率は、財政構造の弾力性を示す指標の一つでございますが、令和6年度は94.9%で、前年度から0.4ポイント上がりました。

主な要因といたしましては、地方特例交付金や普通交付税など経常的な収入が増加しているものの、人件費や物価高騰による物件費、扶助費などの経常的な経費も増額となったことが影響したものです。

11ページをご覧ください。

本議会でも別途ご報告しておりますが、こちらには健全化判断比率を掲載しております。健全化判断比率は、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標から成ります。

本市の令和6年度健全化判断比率は、一般会計等の実質収支が黒字であるため実質赤字比率の表示はなく、また、公営事業会計も含めた実質収支の合計でも黒字であるため、連結実質赤字比率の表示もございません。一部事務組合まで含めた実質公債費比率につきましては2.1%となっており、昨年より0.6ポイント減少しております。地方公社や第三セクターなどまで含めた将来負担比率では、市債残高などの将来負担額から充当可能財源を引きますとマイナスになりますので、負担比率の表示はございません。

したがいまして、11ページの表からもお分かりのとおり、太宰府市の財政状況は全て早期健全化基準及び財政再生基準以下であるため、健全化法に基づく財政健全化計画及び財政再生計画の策定は不要でございます。

12ページ及び13ページをご覧ください。こちらには市債残高と基金残高を掲載しております。

令和6年度中の市債発行額は、令和5年度までに水城小学校の整備が完了したことなどにより、前年度より5億7,030万1,000円減額となりました。

残高としては、償還額が発行額を上回ったため、市債残高は前年度より12億2,467万7,000円

減少し、175億537万3,000円となっております。市債残高を分析いたしますと、このうちの約70%は後年度に普通交付税として交付される額であり、また約11%が史跡地公有化の償還補給金などとして補助金で賄われます。よって、起債残高のうち実質的に市が負担する額は約19%ということになります。

基金につきましては、各種まちづくり施策へ令和の都太宰府ふるさと納税基金を、増加する社会保障費の財源として地域福祉基金を取り崩して活用した一方で、将来や災害等への備えとして積極的に積立てを行い、基金残高の増加に努めました。

この結果、令和6年度末の基金総額は2億1,394万円増加し、過去最高だった前年度をさらに上回り72億6,846万3,000円となりました。

以上、簡単ではございますが、一般会計及び普通会計の歳入歳出決算についての概要を説明いたしました。詳細につきましては、配付させていただいている決算書並びに事務報告書、監査意見書等をご参照いただければと思います。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

○委員長（陶山良尚委員） 説明が終わりました。

質疑は、9月17日の決算特別委員会で行います。

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（陶山良尚委員） 本日は、これをもちまして散会します。

散会 午前10時58分

~~~~~ ○ ~~~~~